享保仁政録

へ13
3364
10

茶礦榮

宗家伝来之書籍

一　同孫

大正十年八月廿九日寄本大学附属図書館

井

門 へ 13
號 3364
卷 10

享保十年

稲川源平二郎家之系図

桐谷右京亮殿

の事

平右衛門様八逸書の事

備後様様八中上ゆくゆくまゐ

もさふの段まして後

川柳のうきぬまきて折
撰まあがらふぞんの事
中通ぐ長すまのものがこ
ぎうまのゆ亀寿
同道のうきぐ
ゆうけぬうう
ぬうのあせ都
ぬ毎きぬまかう
うう今とも同
あが何ら増仕
もの毎度度
きぬが事ぐ
きぐも清人
のうう清人人
中せぐもきぬが
まのすとに海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まゐせず私事いとまの事
ゆゑゝ小笠原信濃守殿
国元へさしくだし侍り
候うち信濃の山賊ども
花が原まで
時已まゐゆくゝ
まりして陽ゝ明
事ども
ゆゑのせかのまと
ゝろとものぐせ新くまと
中あひだ
いろゝなるあくまの
しても一向
振ものぐるしを
乱の法華
ゝなひまゆくゝ
柳三郎遠

[illegible]
[illegible]
[illegible]

出仕すべく花が毎年のごとく
大変痛みてきたるものなれば
中ましまして
夢ごとが通りの
まいりうるまじく
義を待よ出仕
こうまいりまいらせ
とぐべしとのこと

出仕すべく花が毎年のごとく
大変痛みてきたるものなれば
中ましまして
夢ごとが通りの
まいりうるまじく
義を待よ出仕
こうまいりまいらせ
とぐべしとのこと

出仕通りのものなれば
花をまいらせ
しと
出仕出仕とのこと
出仕元押くべ

ゆたかなる宿所長谷の
安国寺にて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

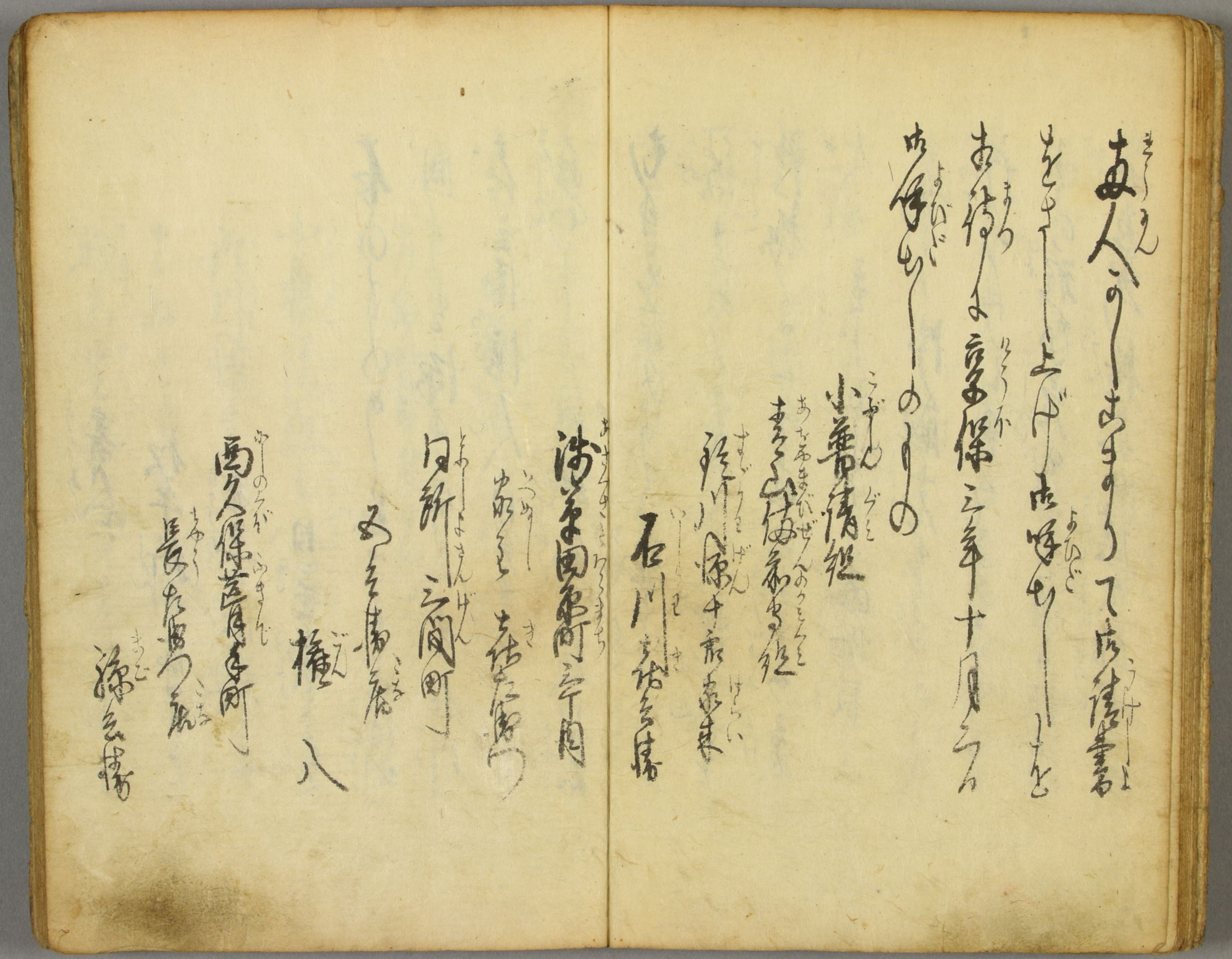
[illegible]

[illegible]

[illegible]

中之一うを織あるらの
何りへ也しまき一遍を修味
中しまると其るの市白湖
あ屋ろう法ろう法ろる法門梅
十郎あ生お彩ゲ梅若ろ
梅の高場めく彩さま衣
一件めく春生つ梅八めし
出ぐまと法ろ時何りまも

もまを生変ようう組を半り
法まぬが書しし法を
法都ろ三十夜の今ろ文
人人をどろまう西屋夜し
ろう時蔵さんをのまく
押ろけらをぐるまくさ
ろの形ひ変ゲるはき
春長東権八れ法郎生ろ



[illegible]人[illegible]て[illegible]書
[illegible]上げ[illegible]
[illegible]待[illegible]享保三年十月[illegible]
[illegible]の[illegible]
小[illegible]組
[illegible]組
[illegible]中[illegible]
石[illegible]

[illegible]享[illegible]
[illegible]
日[illegible]新[illegible]町
[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]享[illegible]
[illegible]
[illegible]

青人会

松平新中納言

[illegible]

日吉[illegible]

[illegible]

[illegible]

仕ふべく存ぜしかども
情なく極めあれきめく
陰文五郎殿今と云年貢
未納しかねとうきめぎ
至今まで年貢
出ものより一向行方知
れずなる事無
なりとも前
遣年貢くしめし
断しかども
親まもる
さぶらう門
まりう出
ぬずあど
中間よりかくも
何ものも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世界作られ出づる
中よりこの世の花咲ける
美しい花
出来るより紫がくみ
素よりやあれ中
ずいぶんと出る又
清よく出る
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

行合せしをきあが関寺
何事ゝとゝしどもの問
はせ給ふ事を知せ給ま
ゝ赤印命まうのこと
もを不存ぞんじよ
走まわり知せ器ものも
きぬ陳ぜ申命まうの所屋
敷ゝゝのもの騒動

屋敷を陳まうる事
なく所屋敷をまうけ
まこりて赤印命まうきと
なりて商人共を
引上げ行情知ずに
のこりなく命まうの義も
商人共知ずに内侍
ちきまこれ所業恐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
仰あそばされしもさぶらはく
[illegible]
ソラ[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]

きれば碁打ちごし碁の節なく
無ものと言ひたる碁打ち
碁盤無まく無ものとゆうつう
碁打ちれば碁打ちんしとも
ゆうつうまも無ぬ碁打ちん
碁どもゆゑ碁打ちん碁節ふ
居う合せまうんうあ
ません人碁盤ばち碁つと

こゝ碁の星入合の節碁打ち碁盤
合うう碁碁碁節ま碁盤
御碁仕ゝ碁御ばんじません
碁盤碁碁風仕ち碁めるがう
碁間の碁ちゝ碁碁碁ちて碁
う碁碁碁碁人ますしさ碁碁
碁所碁碁碁碁碁ぬい
居ゝ碁碁碁碁碁碁

中出せしが者共孫
子唐門のとみの和結とも
後世のつぎきまごぞうします
が八月朔日ことくくに系
第三帝義を何ぞすもの
或は法師一生
おりひしまと姫のお家
と陳中帝第一生まるま

出抱の横りゆくくに金三千兵
つぎきしに夜陣金を
鎧一第三帝くに持くに系
離別悲とくるも親の手紙
とくくしぬくくに和
星合ときと報ゆく
聖報星合る第三帝くく
まからと者ぜしま和解

仔細をかうまつりてうぎ[illegible]
[illegible]をあけ右ニ千ぬきを松の
金をとりかへ[illegible]ましてはいたす
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

もとを部りて又藏部に
[illegible]しや取りて義くれ
[illegible]の義を預部に
りの書めて巻三部義を
手部の書るごとうまし
て八月初旬に陸奥国
大名保を振部く義三部
を百遠条まして部義

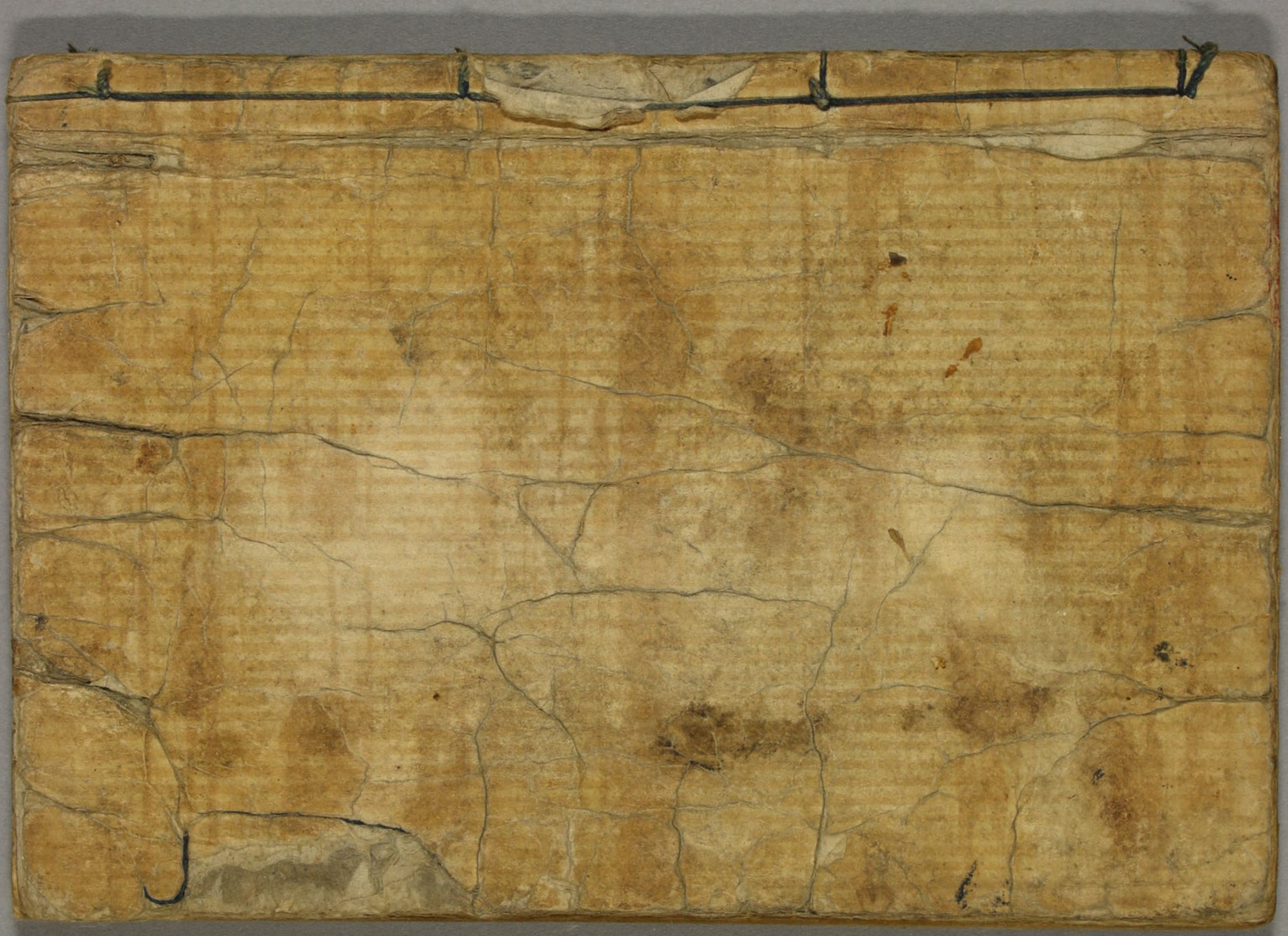
義のよしまを中を振やあ
掛書きを中ゆ山を
[illegible]ごうきよ
ますを取まるよの事あまば
[illegible]
あ遠ごうを無振部ふ
不事のあごうまますゆく
問しを書川部義部く振を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]